

放課後自習教室事業について（検証）

令和5年1月

学校教育部 学校教育室 教育指導課

目 次

1. 実施目的	P 1
2. 事業概要	P 1
(1) 対象学校	
(2) 事業の内容	
3. 事業取り組みの経緯	P 1
4. 出席状況と効果測定、実態調査	P 1～6
(1) 出席状況	
(2) 効果測定、実態調査	
5. 成果	P 6
6. 課題	P 7
(1) 限られた参加回数	
(2) 限られた参加機会	
7. 今後の方向性	P 7～8

1. 実施目的

児童の学習意欲を高め、自学自習力を育むとともに、学習指導要領で求められている資質・能力等の育成を図ることを目的とする。

2. 事業概要

(1) 対象学校

市立の全小学校（小学校 45 校）※令和 4 年度より 44 校

(2) 事業の内容

令和元年度	令和 2 年度	令和 3・4 年度
4 月開始（直営） 実施場所 全 45 校（9 月より 41 校） 対象学年 各校で設定 定員 上限なし 開室日 各校が設定した 平日の放課後 開室回数 年間 80 回程度（週 2～3 日）	9 月開始（民間委託） 実施場所 全 45 校 対象学年 各校で設定 定員 上限なし 開室日 各校が設定した 平日の放課後 開室回数 年間 24 回（週 1 回 2 コマ）	5 月開始（民間委託） 実施場所 令和 3 年度 全 45 校 令和 4 年度 全 44 校 対象学年 各校で設定 定員 上限なし 開室日 各校が設定した 平日の放課後 開室回数 年間 24 回（隔週 1 回 2 コマ）
9 月開始 民間委託 実施場所 4 校（放課後子ども教室 モデル事業実施校） 対象学年 各校で設定 定員 1 校あたり 40 名 開室日 各校が設定した 平日の放課後 開室回数 年間 16 回		

3. 事業取り組みの経緯

放課後自習教室は、平成 20 年度から全小学校で実施している。地域人材である学習支援員（やる気リーダー）が各小学校を会場として放課後に、学習コンテンツ等を活用しながら児童の基礎学力の定着を図る取り組みとして一定の役割を担ってきた。令和元年 9 月に、民間事業者への委託による放課後自習教室を試行実施し、令和 2 年 5 月より本格実施予定であった。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえて、9 月実施とした。令和 3 年度と 4 年度については 5 月から実施している。

4. 出席状況と効果測定、実態調査

(1) 出席状況

①登録者数

令和元年度		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
直営 41 校	民間委託 4 校	民間委託全 45 校	民間委託全 45 校	民間委託全 44 校
未把握	111 名	1419 名	1714 名	1419 名

※令和 4 年度は 12 月末現在

②出席率（出席者数/登録者数）

令和元年度		令和 2 年度	令和 3 年度
直営 41 校	民間委託 4 校	民間委託全 45 校	民間委託全 45 校
未把握	70%	80.9%	53.4%

(2) 効果測定、実態調査

①「民間委託」業者による参加児童に対するアンケート調査結果

【小学校】

	質問項目	肯定的回答		
		R 2	R 3	R 4
1	放課後自習教室に参加して勉強のやる気は上がりましたか。	64%	68%	80%
2	学校の授業がわかるようになりましたか。	70%	76%	81%
3	放課後自習教室での勉強は楽しいですか。	81%	88%	94%
4	以前より自分で計画をたてて勉強するようになりましたか。	69%	72%	79%

※令和2年度：3学期実施 民間委託全45校 令和3年度：2学期実施 民間委託全45校

令和4年度：1学期実施 民間委託全44校

[総評]

民間事業者への委託による放課後自習教室（小学校）を本格実施した令和2年度からアンケートを実施しており、各項目とも向上傾向がみられている。

②「民間委託」業者による保護者に対するアンケート調査結果

	質問項目	肯定的回答	
		R 3	R 4
1	本自習教室の年間実施回数（24回）について（妥当である）	70%	76.3%
2	各小学校で対象学年が限られていることについて（拡充希望）	51.1%	51.8%
3	本自習教室に参加して、学力向上が見られるか（肯定）	57.8%	57.2%
4	本自習教室に参加して、学習習慣・学習意欲の向上が見られるか（肯定）	60.2%	66.1%
5	本自習教室に通うことを楽しみにしているか（肯定）	72.7%	76.1%

※令和3年度：2学期実施 民間委託全45校 令和4年度：2学期実施 民間委託全44校

《自由記述》※同主旨の内容のものは省いています。

[感想]

- ・宿題を終わらせてくれるので自宅学習がはかどって助かっています。
- ・塾とか習い事は行ってくれないけど、心理的ハードルが低いのかこちらの教室は行ってくれるので助かります。
- ・やはり学童保育では宿題の時間も限られていて集中して取り組めないとのことなので、自習室は助かります。働く親にとって、子供の宿題を見る時間も取れないときもあるので、学校で完結してくれてるのでとても助かっています。
- ・いつもありがとうございます。違う学年のお兄さんお姉さんと一緒に出来るところも、面白いようです。来年度も、開催されるのであれば申し込みたいそうです。
- ・塾まではいかないけど自身のやる気を伸ばしてくれる教室があるのはとても嬉しいし通い出したばかりですが子供はめちゃくちゃ楽しみにしています✳️親的にもとてもありがたいです。

[要望]

- ・いつもありがとうございます。3年で終わりかと思うと残念です。高学年も対象にして頂けると有り難いです。
- ・子どもが音が出るから今はできてないけど音の出る英語がやりたいって言っています。

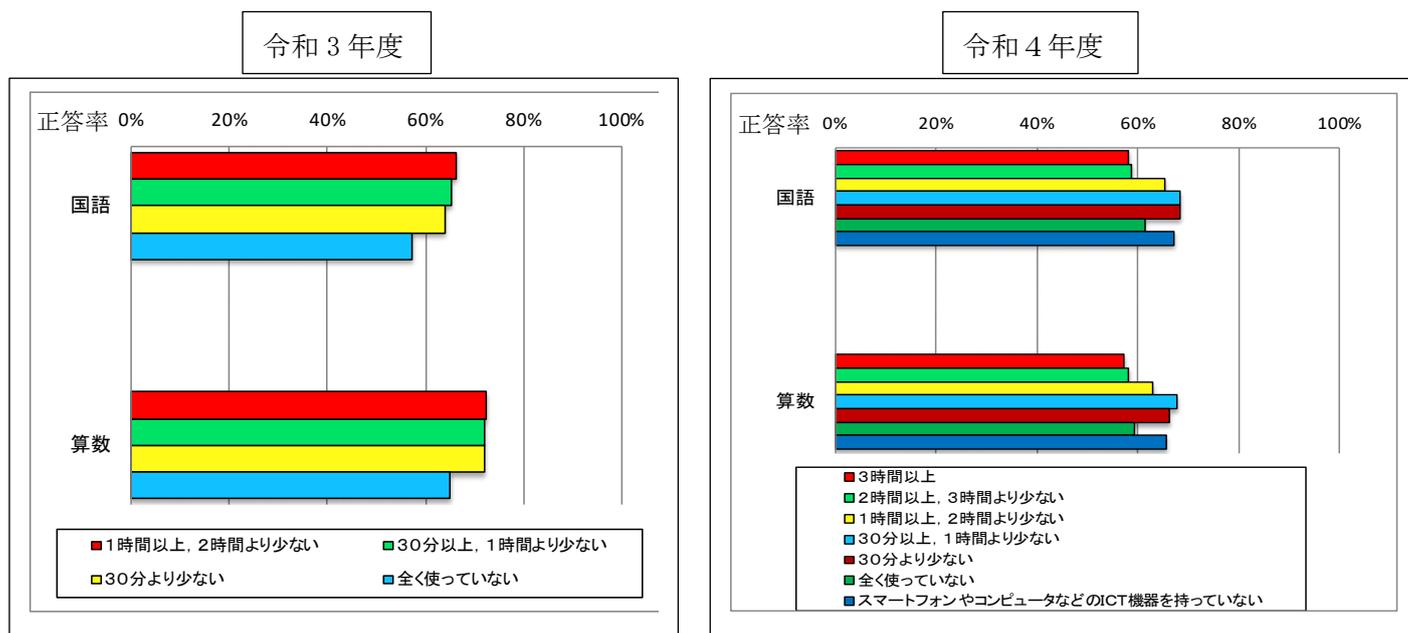
- ・同じクラスの友達がいないと参加しづらいと言って途中でやめてしまいました。参加する人数が増える様な工夫をしてほしいです。
- ・こどもは楽しみに行きたがっているのですが、習い事で行けないこともあり曜日の選択幅があれば助かります。
- ・子供の習い事が多くなり、通わせることが難しい。特定の曜日ではなく、何日か曜日があるうち1日のみ通うなどしてほしい。放課後にするのもいいが、夏休み等の長期休みの時もした方がいいのではないか。
- ・子供に合わせてもう少しステップアップできるような課題を出してもらえようしてほしい
[講習の内容について]
- ・宿題をする場所と思っているようで分からないところを聞ける場所にもなれたら良いなと思います。
- ・タブレット中心にされているようで、タブレットドリルが全て終わっている子にとっては退屈なようです。また、繋がりが悪いことが多く結局なにもできなかったという日もあります。現在も子供が気づいていないだけでプリント等の用意がされているかもしれませんが、タブレット以外の学習も取り入れていただきたいです。
- ・前年度は算数プリントをしていたようですが、今年度は宿題をするだけの内容になっているようです。
- ・勉強も大事ですが、今の子供は忙しいので遊ぶ事も優先しています。自習できる場があるのはありがたいので、難しい事ですが回数が多い方が習慣化されるのかなと思います。
- ・2年生で初めて参加しました。留守家庭児童会以外の放課後の子どもの居場所としてこれからも継続して頂きたいです。学校の先生以外の方に勉強を教わるのも良い機会だと思います。子どもも教室がある日を楽しみにしていますし、習い事のように送迎が要らないのは親としても助かっています。

[総評]

本自習教室の年間実施回数（24回）について妥当であると回答している割合は70%以上であるが、自由記述の回答内容をみると拡充を希望する声が多い。各小学校で対象学年が限られていることについて拡充を希望する割合は半数を超えており、自由記述の回答内容も同様に拡充を希望する声が多い。また、児童に合わせステップアップできるような課題を望む声も少なからずあった。

③令和3・4年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙から

質問：普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

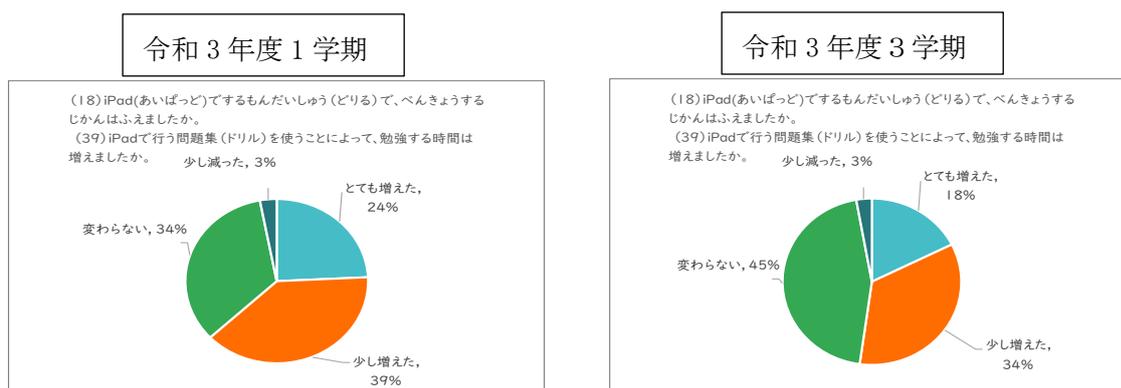


令和3年度は、ICT機器を、全く使っていない児童と使用している児童を比較して、使用している児童の方が国語と算数・数学の正答率が高い結果となった。

令和4年度は、ICT機器を、全く使っていない児童と使用している児童を比較して、大きな差は見受けられなかった。2時間以上長時間使用すると正答率が低い結果となった。

④令和3・4年度に教育委員会が全校の児童を対象に実施した市独自の児童アンケートから

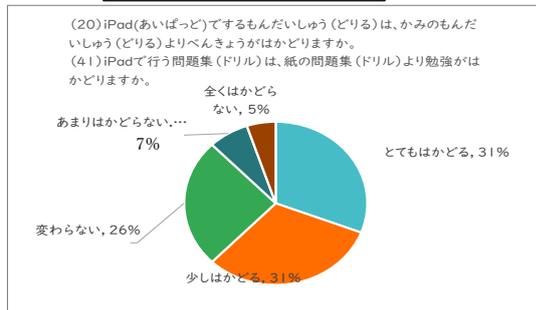
質問：iPadで行う問題集（ドリル）を使うことによって、勉強する時間は増えましたか。
※令和4年度はアンケート項目から除外



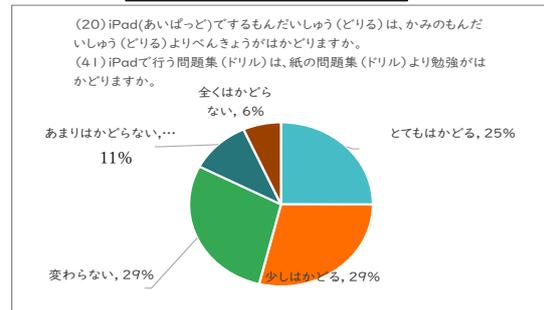
1学期は肯定的回答が63%、現状維持が34%となっている。3学期は肯定的回答が52%、現状維持が45%となっている。

質問：iPadで行う問題集（ドリル）は、紙の問題集（ドリル）より勉強がはかどりますか。
 ※令和4年度はアンケート項目から除外

令和3年度1学期



令和3年度3学期



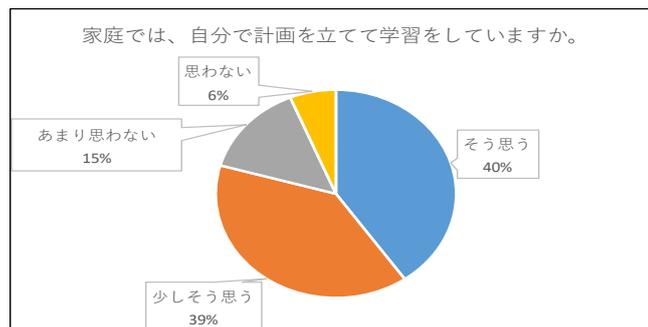
1学期は肯定的回答が62%、現状維持が26%となっている。3学期は肯定的回答が54%、現状維持が29%となっている。

[総評]

令和3年度実施のアンケート結果より年間を通じて肯定的回答が半数を超えており、「iPadで行う問題集（ドリル）」は、学習時間の増加に効果的であり、学習の効率化に有効であると児童は捉えている。

質問：家庭では、自分で計画を立てて学習をしていますか。 ※令和4年度に項目設定

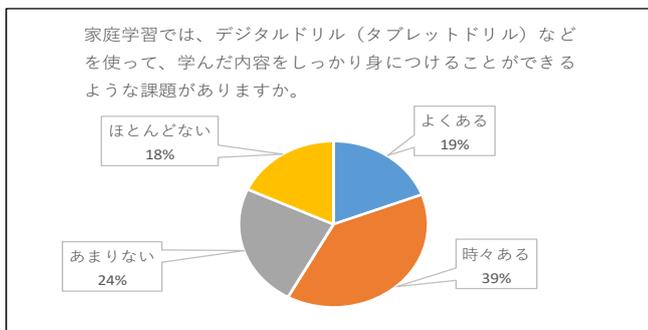
令和4年度1学期



肯定的回答が79%となっている。

質問：家庭学習では、デジタルドリル（タブレットドリル）などを使って、学んだ内容をしっかり身につけることができるような課題がありますか。 ※令和4年度に項目設定

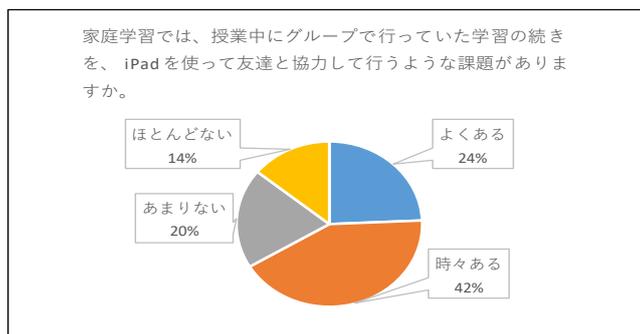
令和4年度1学期



「課題がある」との回答が58%となっている。

質問：家庭学習では、授業中にグループで行っていた学習の続きを、iPad を使って友達と協力して行うような課題がありますか。 ※令和4年度に項目設定

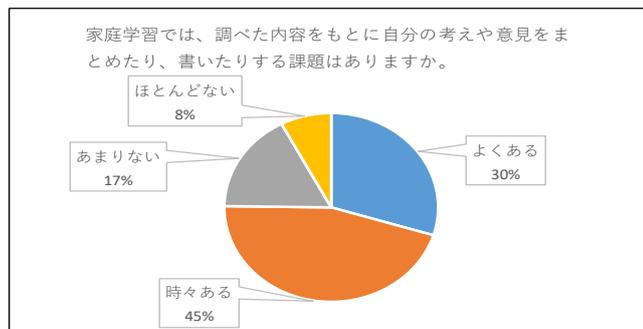
令和4年度1学期



「課題がある」との回答が66%となっている。

質問：家庭学習では、調べた内容をもとに自分の考えや意見をまとめたり、書いたりする課題はありますか。 ※令和4年度に項目設定

令和4年度1学期



「課題がある」との回答が75%となっている。

[総評]

令和4年度1学期実施のアンケート結果より、児童が「家庭では、自分で計画を立てて学習をしていますか。」の質問に肯定的な回答が79%あり、自学自習力が一定根付いてきたといえる。また、家庭学習において「タブレット端末を使用する課題」などを担任等から課されていると感じている児童が過半数を超えており、学校からタブレット端末を使用して児童自らが試行錯誤し解決できる課題や、協働して学習できる課題を課していると考えられる。

5. 成果

出席率と民間委託業者による参加児童に対するアンケート調査から、向上傾向が見られたので引き続き、参加意欲向上の取り組みは必要である。登録者数については、上昇傾向がみられ、児童・保護者の参加意欲の向上がうかがえる。

令和2・3年度は、2回、確認小テストを参加児童に行った。結果は以下の通り。令和2年度は、どの学年でも上昇傾向がみられたが、令和3年度は下降している学年もあった。

学年	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
	R 2	R 3	R 2	R 3	R 2	R 3	R 2	R 3	R 2	R 3	R 2	R 3
平均点数 の点差	+5点	+3点	+10点	-4点	+7点	-4点	+7点	0点	+15点	+7点	+15点	-2点

令和3年2学期実施の保護者へのアンケート結果からは、肯定的な回答をしている割合からも良好な結果である。特に「学力向上が見られるか」「学習習慣・学習意欲の向上が見られるか」「楽しみにしているか」の項目について半数以上の肯定的回答が得られている。

6. 課題

(1) 限られた参加回数

令和3・4年度は年24回の開催としている。より大きな効果を期待するには、回数が多いほど効果的であるため、回数増加が望まれる。

(2) 限られた参加機会

各学校において特に注力して育成したい学年を設定していることから、設定した学年以外の児童は参加することができず、学習の機会が与えられていない。

7. 今後の方向性

(1) 総合型放課後事業における学習の場の設定

小学校において令和5年度から実施する総合型放課後事業の中で、学習に取り組める場を設定する。このことにより、学年の制限や開催日の制限がなくなり、学習機会の拡充が期待できる。また、こうしたことから、より児童の自主的な学習意欲の育成をめざすことができる。

(2) AIドリルの導入（アンケート対象校：令和3年度 navima 検証校2校）

①児童を対象としたアンケート調査 ※令和3年度3学期実施

質問：「学校の宿題以外で、iPadで行うドリルを使うことはありますか」

現行の学習ドリル（非AI）（52.0%） AIドリル（68.2%）

②教員を対象としたアンケート調査 ※令和3年度3学期実施

質問：「児童生徒は、学校の宿題以外で、デジタルドリルを使うことがありますか」

現行の学習ドリル（非AI）（60.6%） AIドリル（94.7%）

質問：「児童生徒はデジタルドリルを使うことにより、自分にあった問題を解き、力をつけていると思いますか」

現行の学習ドリル（非AI）（50.0%） AIドリル（73.7%）

③教員と子どもの声 ※令和3年度3学期実施

【教員】

- 子どもたちが自分のスピードで、どんどんと解くことができるところがよい。
- 分からない問題に出会ったときや問題を間違えたときに、自分で解決できるようにアシストしてくれる機能がよい。
- 子どもの理解度が蓄積されてくので、個人の進捗に応じた課題設定や個別指導につながれるとよい。
- メダルや励ましのスタンプが、子ども達のやる気につながっていると思う。

【子ども】

- 問題をたくさん解いていくことができる。
- 間違えたときに、前の問題に戻ったり、分からないところを動画で見られたりできる
ところが嬉しい。
- 算数が苦手だったけど、計算することが少しだけ好きになった。

今後も引き続き、タブレット端末を活用した自学自習の取り組みを進めていく。例えば、令和5年度から導入するA Iドリルは、一人で学習することができるコンテンツで、正誤もコンテンツが自動で行い、苦手としている箇所を分析し、それぞれの児童に最適な問題が提案され、一人でも学習を進めることができる。また、担任や教科担当は進捗状況や習熟度合いを把握することが引き続き可能となっている。令和3年度実施のアンケート結果からも、効果的であると捉えられる。

[放課後自習教室のイメージ図]

	放課後自習教室（現在）	総合型放課後事業
自学自習力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の開室 ・家庭で一人でする学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎日開催 (土曜日・三休業日も含む) ・みんなで学習 ・自発的な学習 ・自由な学習機会
参加形態	<ul style="list-style-type: none"> ・登録制 ・開催日指定 ・設定学年のみ ・指導員のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録制 ・学校休業日の放課後、土曜日、 三季休業期に実施 ・全学年 ・教員による家庭学習への仕掛け の工夫や支援員からの声かけ
得られる効果	<ul style="list-style-type: none"> ・習慣づけ ・学習意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・習慣づけの機会増加 ・学習意欲の向上 ・自主性の醸成

小学校では、来年度から導入されるA Iドリルを活用し、問題が不正解だった際に、間違い方に
応じて自分に合った問題が自動的に出題される。また、問題ごとに解説動画があり、自分のペース
で好きなときに、好きな場面で動画を視聴できる。間違い方の分析から次の問題が出題される等、
個に応じたサポート機能が充実しており、令和3年度実施のアンケートの結果や児童・保護者から
の声からも「個別最適な学び」の実現に向けて効果が期待できる。

また、総合型放課後事業「放課後オープンスクエア」では教科学習だけでなく、児童個人の自主
性にゆだねた学びの場を提供できることから、教員による家庭学習への仕掛けの工夫や支援員の声
かけ、児童自身が様々な学習課題を様々な場所等選択肢から自ら判断し学習に取り組むなど意識付
けを行うことで、一人ひとりの個性に応じた成長の可能性の拡大が期待できる。